



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和7年2月21日

横浜市立三ツ境小学校



三ツ境小だより 3月号

「新しい芽」

校長 飯田 雅人

校庭の木々の芽が日に日に膨らみ、桜の木には、少しずつ変化が見られるのに気付くことができます。枝の先にはまだまだ堅いのですが、小さな小さな花のつぼみがもうすでに付いています。同様に他の植物にも「新しい芽」が少しずつ育ってきているのが分かります。

落葉は、厳しい環境条件に耐えるためにそれに弱い葉を落として休眠に入る適応です。他にも厳しい環境条件の時に塩害や虫害から身を守るという防御反応でもあります。光合成という視点から考えると、葉は大きくてうすい方が効率はよいです。しかしそれでは、乾期や寒冷期など不適な季節に対応できない場合の適応として、葉を小さく厚くするという方法があり、日本の多くの常緑樹はそのようになっています。落葉性は、それでも耐えられないので葉を維持することをあきらめるという適応なのです。とはいえ落葉樹は、生長期になれば葉のない状態で新しく茎と葉（桜の場合は花）を出さなければならないので、常緑樹よりも多くのエネルギーを要します。このことに対応するために多くの落葉樹は、葉を落とす前にその分解物を回収して根や内樹皮にタンパク質として貯蔵し、このタンパク質が新しい芽などが出る際の栄養として利用されるのです。そして落ちた葉は土にもどり、また新たな他の動物や植物の栄養の元となっていきます。

さて、今は進級に向けて次への準備にとりかかる時期です。立派な次の「新しい芽」を育てるためにその栄養を蓄えるための大事な時なのです。新しい学年になってから、急に頑張ろうと思ってできるようになるわけではありません。何よりも今までの蓄えが「新しい芽」には大切なのです。今年1年間、お子さんには学校生活や家庭生活の中で頑張ってきたことがたくさんあると思います。子どもたちの成長の様子は、樹木と同様さまざまです。結果だけにとらわれず、その過程で頑張った様子を具体的に称賛することが大切であると考えます。一見、今は「無駄だった」とか「失敗だった」と思うようなことも、あとから長い目で振り返ってみると、大きな財産になっていたということはよくあります。

3月19日には、99名の6年生が、未来への夢と希望をもって三ツ境小学校を巣立っていきます。この3月は、自分を支えてくださった方への感謝の気持ちを持ちながら、卒業までの日々を過ごしてほしいと願っています。

令和6年度も子どもたちを温かく見守っていただいた地域の皆様、そして、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。再来年度の令和8年度には、三ツ境小学校は、創立70周年を迎えます。今後とも保護者・地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。